多自然川づくり取り組み事例

タイトル	藻器堀川における多自然川づくりの取り組みについて		
水系／河川名	緑川水系　藻器堀川	河川分類	都市河川
河川の流域面	8.1km2	整備計画流量	55m3/s(W=1/50)　セグメント：2-1
事業	河川改修	事業開始年度	昭和47年度
目標設定	定性的	段階	D(実施・施工時)
課題・目的(主な)	水際域の保全・再生・創出、水辺へのアクセス改善		
工法(主な)	護岸整備、階段工の整備		
配慮事項(主な)	河川景観への配慮		

背景・課題、目標設定

<背景・課題>

藻器堀川は以前より流域内において浸水被害が発生していたことから、昭和47年に事業認可を受け河川改修に着手した。

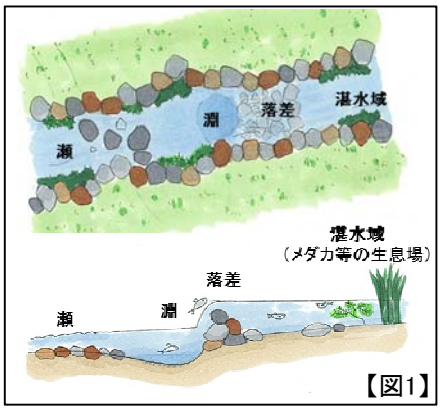
その後、「多自然型川づくり」の考え方が示されたことを契機に、河川環境に配慮した川づくりに取り組み始め、多様な水際環境が創出され、ゲンジボタルの発生地になるなど地域に親しまれている。しかし、その一方で「河川の常時水量が少なく水深が浅い」、「縦断的に単調となっている」、「河川内に外来植物が侵入・定着したことで鬱蒼とし、安全性・アクセス性が低下している」などの課題が生じている。

<目標>

・縦断的な流れに多様性を持たせ、ドジョウ・ミナミメダカなどの重要種の生息環境を復元する。
・河川へのアクセス性及び安全性を目的として、植生範囲を低水部に限定し、外来植物の生育を抑制する。

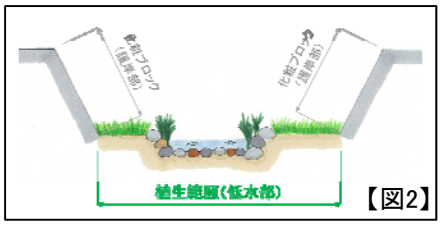
取り組み内容・対策例

【図1】ドジョウ・ミナミメダカ・カワヂシャ等の重要な種の良好な生息・生育環境を保全・復元する。(自然石を用いて、瀬・淵・落差・湛水域などを設け、縦断的な変化を付ける。)



【図1】

【図2】都市部のオアシス空間として、良好な河川景観を保全・創出する。
(護岸に低明度の化粧ブロックを用いて、植生範囲を低水部に制限し、外来植物等の生育・繁茂を抑制する。)



【図2】

ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ結果、ｱﾋﾟｰﾙﾎﾟｲﾝﾄ、今後の対応方針

<モニタリング結果>

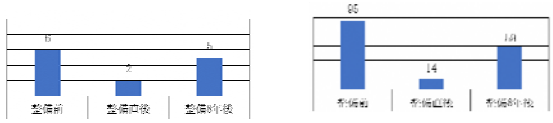
整備済み区間において、魚類の種類数・個体数が回復傾向にあり、全体的な取り組みとしては評価できる。

植生については、河道内に外来種が繁茂し、アクセス性・安全性が低下している。

<今後の方針>

今回検討した取り組み内容(縦断的な多様性・植生範囲の制限)を現場に反映し、取り組みの前後でどのように生態系が変化したか、また、出水時にどうなったかを継続的にモニタリングを行い、その結果を反映した川づくりを行っていく。

施工2年後　施工8年後



魚類　種類数　　魚類　個体数

備考

問い合わせ先	熊本市役所　東部土木センター　河川公園整備課
電話番号	096-367-5509

平成30年度 全国多自然川づくり会議 九州ブロック選出

緑川水系／藻器堀川　熊本市東部土木センター

藻器堀川における多自然川づくりの取り組みについて

Keywords ： 都市河川，自然再生，重要種の保全

●Before

●After

現場条件・環境調査の結果を基に川づくりの目標を定めて、河川整備を進めてきた。整備後に検証を行った結果、縦断的な流れが単調になっていることや河川へのアクセス性の低下していることが課題となっており、今後どのように川づくりに取り組んでいくかを検討した事例について説明を行う。